

# いま全国の動労現場で何が起こっているのか？ NO.3

## つばめ

第801号 昭和60年3月23日

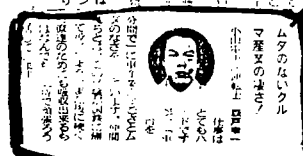
編集 日本国有鉄道広報部  
編集人 広報部長 高野浩夫  
〒100 東京都千代田区丸の内1-10-1  
電話 (日)03-1222

### 「いすゞ」へ職員100人派遣




#### トラック部品の製造組立て

東京北局から18人がすべてに就業



これはと天童な  
仕事は……  
ムダのないクル  
マ産業の凄さ！



ムダのないクル  
マ産業の凄さ！  
小山電車区運転士 森戸幸一

仕事は  
とてもハ  
ードです  
が、「車  
一台を  
一分間で」に車産業のすごさとム  
ダのなさを感じています。仲間  
たちとは、この経験が国鉄に帰  
って役立つよう、また後に続く  
同僚達のためにも吸収出来るも  
のはなんでもの気持で頑張らう  
と思っています。

## 自動車産業のライン作業はすばらしい……

仲間たちとは、この経験が国鉄に帰って役立つよう、また後に続く同僚達のためにも吸収出来るものはなんでもの気持ちで頑張らうと話しています」というのである。

国鉄当局が発行する『つばめ』第八〇一号（三月二三日号）の一面に、「『いすゞ』へ職員一〇〇人派遣」の記事が掲載された。

いすゞ自動車への派遣第一陣として全国から一〇〇名の国鉄労働者が赴き、動労「本部」組合員が多数を占めているのはよく知られているが、なんとその第一面を飾っているのが、元動労京都宮地本青年部長で革マル森戸幸一の合理化を絶賛する「産業報国戦士」としての「決意」である。

森戸は言う、「仕事はとてもハードですが『車一台を一分間で』に車産業のすごさとムダのなさを感じています。

しかし現実には、民間企業に派遣された約千名の動労組合員の多くが、労働運動と切断された中で過酷な労働を強制され、身も心もクタクタにされる中で、資本のマル生教育にさらされているのだ。

そして「元の職場に帰してくれ」との悲痛な声にも出先き資本と国鉄と動労「本部」役員からの一致した「回答は「いやなら辞めたらいい」の一言なのだ。

永年にわたって動労青年部を反動的暴力支配してきた森戸（動労千葉破壊オルグにも先頭に立ってのり込んできた奴）をはじめとする「本部」革マル分子は、今や、完全にマル生分子として「車産業のすごさとムダのなさ」を「国鉄の中にもち帰って生かす」べく、修業にはげんでいるのだ。こんな労働者の敵を絶対に許すわけにはいかない。

(以下、つづく)

# 5.26 三里塚

## 三里塚二期着工と国鉄「分割・民営化」 15万人首切りを阻止するため！ 全力で10時成田運転区集合



▲三里塚の「分割・民営化」を実現して生かした動労千葉（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

# 日刊 動労千葉

85. 5. 24  
No. 1946

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七